



「外為短期投資家動向調査」結果

<第42回調査>

2012年11月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2012年11月13日(火)13:00~2012年11月20日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は596件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

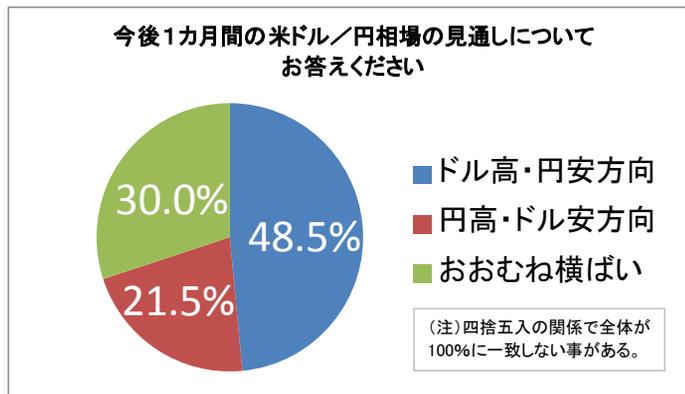
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第42回調査結果略報：円安継続だが対ユーロでは円高を予想】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

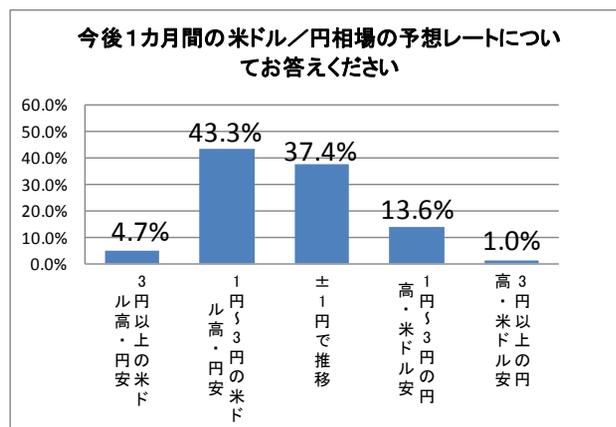
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は21.5%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+27.0%ポイントとなり、前月(+30.9%ポイント)に比べるとややプラス幅が縮小したが、比較的高水準のプラスDIを維持した。調査期間中のドル/円相場は79円台から81円台までほぼ右肩上がりに上昇しており、こうした堅調推移を背景にFX投資家はドル強気・円弱気予想を維持したと見られる。また、今回は「おおむね横ばい」の割合が前月から減少し、「ドル高・円安方向」、「円高・ドル安方向」の割合がいずれも増加した点が特徴的だ。FX投資家は足元の相場の動きについて、今後上下どちらに向かうにせよ、動き出しのきっかけになるという感触を抱いているようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が43.3%と最も多く、次いで「±1円で推移」が37.4%、「1円～3円の円高・ドル安」が13.6%、「3円以上のドル高・円安」が4.7%、「3円以上の円高・ドル安」が1.0%の順となった。ヒストグラムの形状は大きくドル高・円安側に傾いている。また、ここでも「±1円で推移」の割合が前月から減少しており、問1の結果と整合的である。調査期間における米ドル/円相場の平均終値(80.86円)を基準にすると、最も多くのFX投資家が予想する今後1カ月間のレンジは81円台後半から83円台後半という事になる。

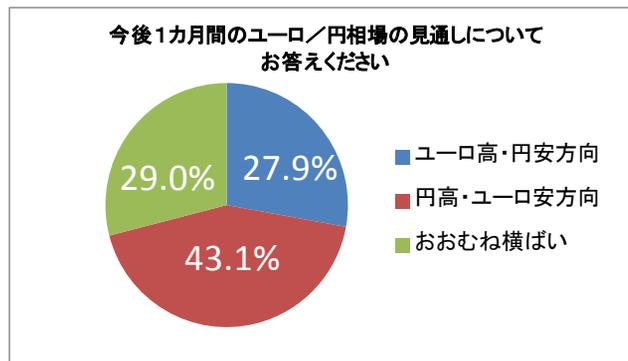


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

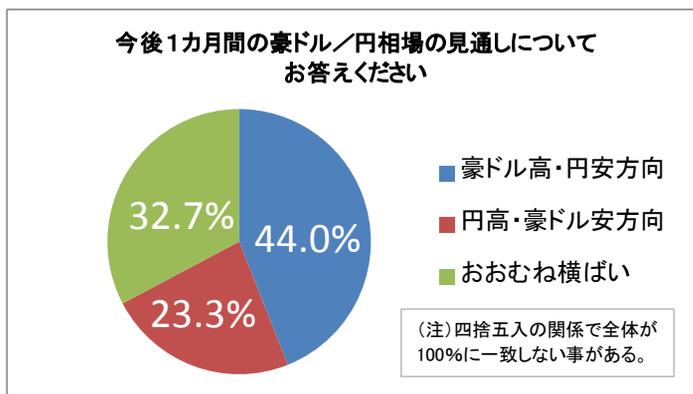
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が27.9%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が43.1%となった。この結果「ユーロ円予想DIは▲15.2%ポイントとなり、前回調査で7カ月ぶりにユーロ強気・円弱気に転換したFX投資家の相場観は再び円強気・ユーロ弱気に転じた。調査期間中のユーロ/円相場が月初来安値の100.33円から月初来高値の104.77円まで一気に上昇するなど、円全面安の様相となったにもかかわらず、4割以上のFX投資家が「円高・ユーロ安」を見込んでいる点は非常に興味深い。多くのFX投資家が、今回のユーロ/円相場の上昇を逆張り(の売り)の好機と考えているフシがある。
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が44.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は23.3%となった。この結果「豪ドル/円予想DIは+20.7%ポイントとなり、6カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は82.36円から84.82円まで上昇したが、予想DIのプラス幅は2カ月連続で拡大しており、ユーロ/円予想DIがマイナスに転じたのとは対照的である。ユーロ圏と違い、豪州が健全財政国である事や高金利国である事がFX投資家の豪ドルに対する信頼感の高さにつながっているのだろう。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



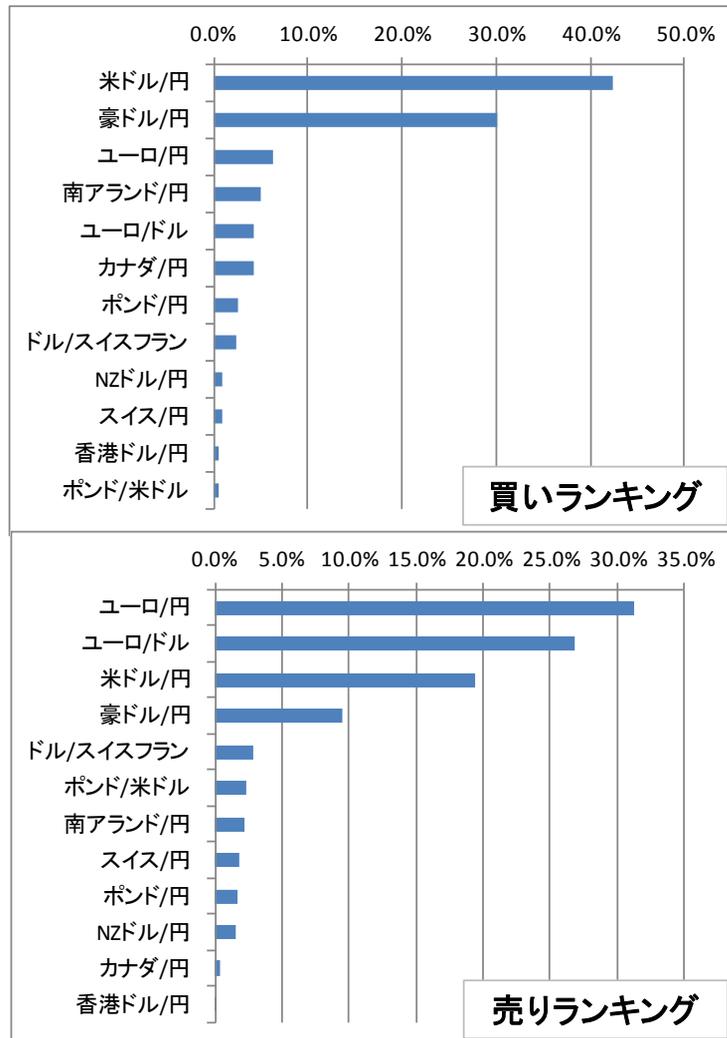
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(42.4%)、2位豪ドル/円(30.2%)、3位ユーロ/円(6.4%)、4位南アランド/円(5.0%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/円(31.2%)、2位ユーロ/ドル(26.8%)、3位米ドル/円(19.5%)、4位豪ドル/円(9.6%)となった。「買い」で注目の上位4通貨ペアについては前月から順位に変動はないが、米ドル/円と豪ドル/円の回答割合が増加した一方でユーロ/円と南アランド/円は回答割合が減少しており、FX投資家の「買い」興味はますます上位2通貨ペアに偏りつつある。

また、「売り」で注目の通貨ペアについては、ユーロ/円が回答割合を伸ばして1位をキープしたほか、ユーロ/ドルは3位から2位にランクアップした。米ドル/円、豪ドル/円についてはいずれも回答割合が低下しており、FX投資家の「売り」興味もまた上位2通貨ペアに偏り始めているようだ。FX投資家のユーロに対する先安感の強さが改めて浮き彫りとなった。

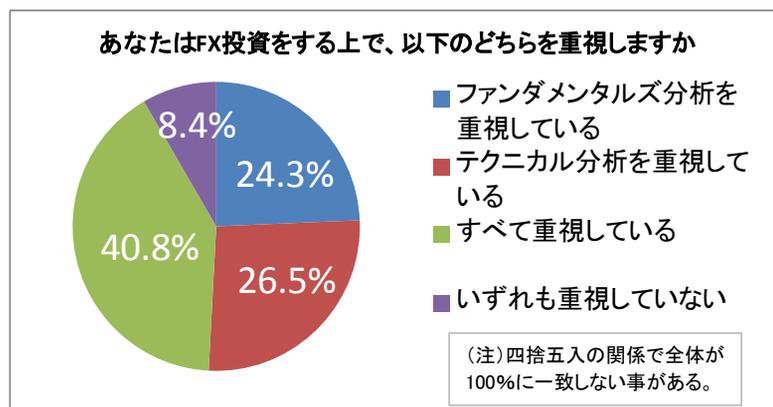


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

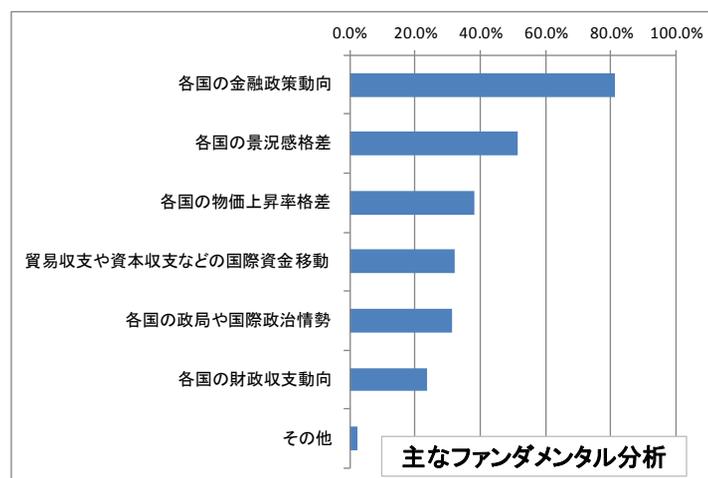
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が24.3%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が26.5%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が40.8%と引き続き最も多かった。「すべて重視している」の割合は、2009年の調査開始当初は20%台後半(2010年1月調査まで)であったが、足元では40%台まで増加している。これは、真剣に相場に取り組むFX投資家が徐々に増えている事の表れであろう。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(81.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(51.4%)」、「各国の物価上昇率格差(38.1%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(32.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(31.5%)」、「各国の財政収支動向(23.7%)」、の順に続いた。順位は前月と同じだが、「各国の金融政策動向」が回答割合をさらに伸ばして他を圧倒している。次期首相の最有力候補である安倍・自民党総裁が政権奪取後の「金融政策」について、インフレ目標の引き上げや、国債の引受け、マイナス金利など、日銀に対して緩和圧力を高める発言を繰り返し、これが円売り材料となっている事が影響したものと思われる。

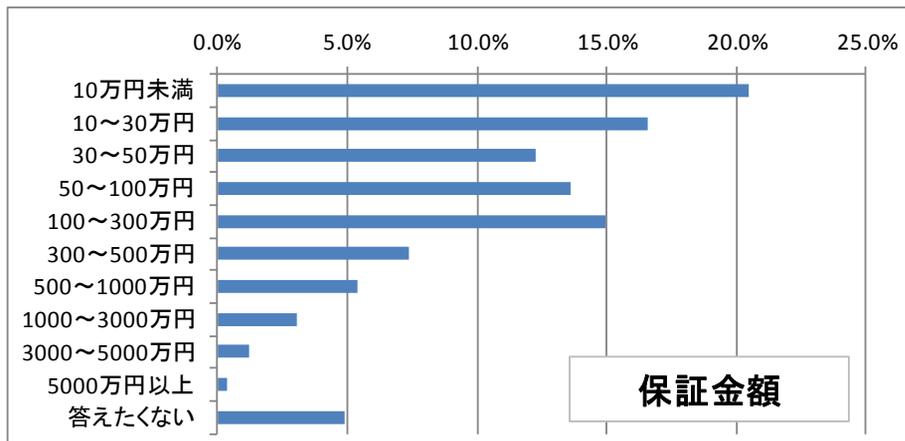


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

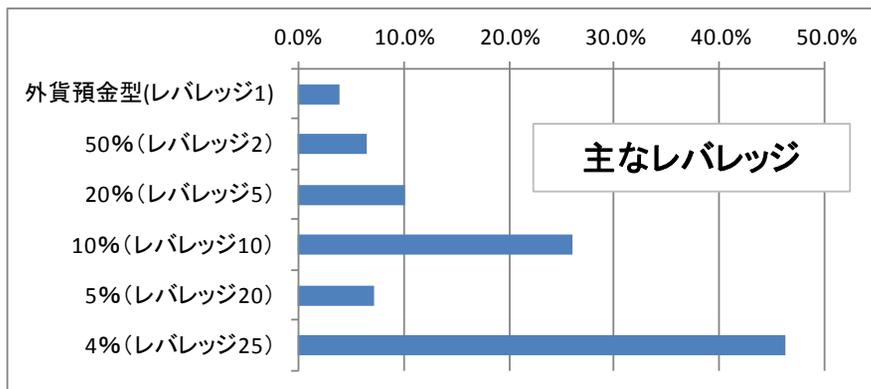
問8:FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が20.5%と最も多く、以下「10～30万円(16.6%)」、「100～300万円(14.9%)」、「50～100万円(13.6%)」、「30～50万円(12.2%)」、と続いた。合算割合で62.9%のFX投資家が100万円以下の保証金で取引を行っており、小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表している。ただ、前年同月との比較では、30万円以下の割合が低下している一方で、30万円以上3000万円以下の割合はいずれも増加(3000～5000万円は変わらず)しており、緩やかにではあるがFX投資家が保証金を増額している傾向も覗える。こうした動きが趨勢的なものであるのかを確認する意味でも、今後の調査結果が注目されよう。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が46.3%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が26.0%、「20%(レバレッジ5)」が10.1%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が7.2%、「50%(レバレッジ2)」が6.5%となった。2011年8月に最高レバレッジが25倍までに規制されて以降は、概ね同じ回答割合となっており、FX投資家のレバレッジ選択のスタイルはほぼ固定されたと考えられる。同時に、そのスタイルは相場状況や自身の相場見通しにあまり左右されないとも言えるだろう。なお、今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は16.3倍であった(前月は16.8倍)。

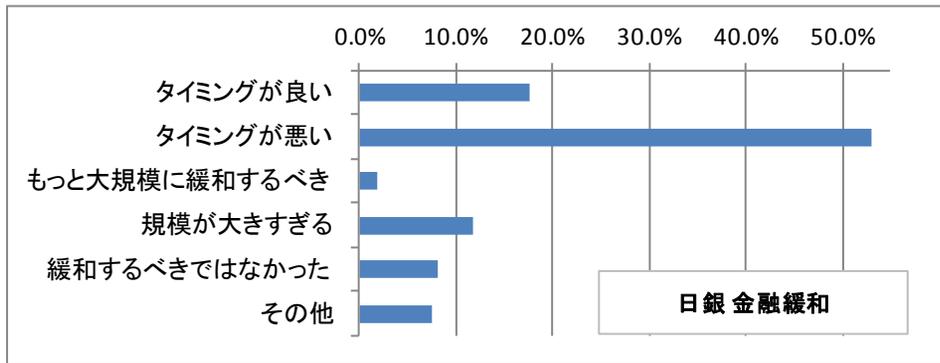


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

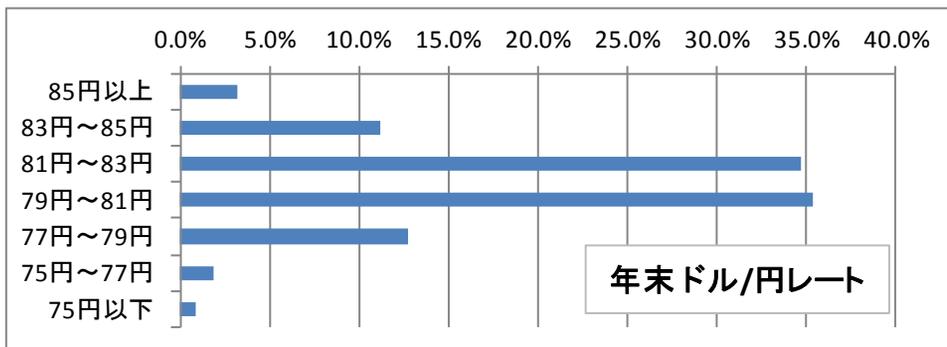
問10: 2012年10月30日に日銀は2回連続の金融緩和を行いました。今回の連続となる金融緩和に対するあなたの評価のうち、もっとも当てはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、2012年10月30日に日銀は2回連続の金融緩和を行いました。今回の連続となる金融緩和に対するあなたの評価のうち、もっとも当てはまるものをお答えください。(ひとつだけ)と尋ねたところ、「タイミングが悪い」と答えた向きが53.1%と最も多く、以下「タイミングが良い(17.6%)」、「規模が大きすぎる(11.7%)」、「緩和するべきではなかった(8.2%)」、「もっと大規模に緩和するべき(1.9%)」と続いた。FX投資家の半数以上が「タイミングの悪さ」を指摘した一方で、緩和の規模についてはある程度の評価を得たと言って良いだろう。FX投資家による日銀の連続緩和への評価は「規模に不満はないが、どうせやるならもっと早くやればよかった」という事になるのだろうか。



問11: 2012年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートを お答えください(ひとつだけ)

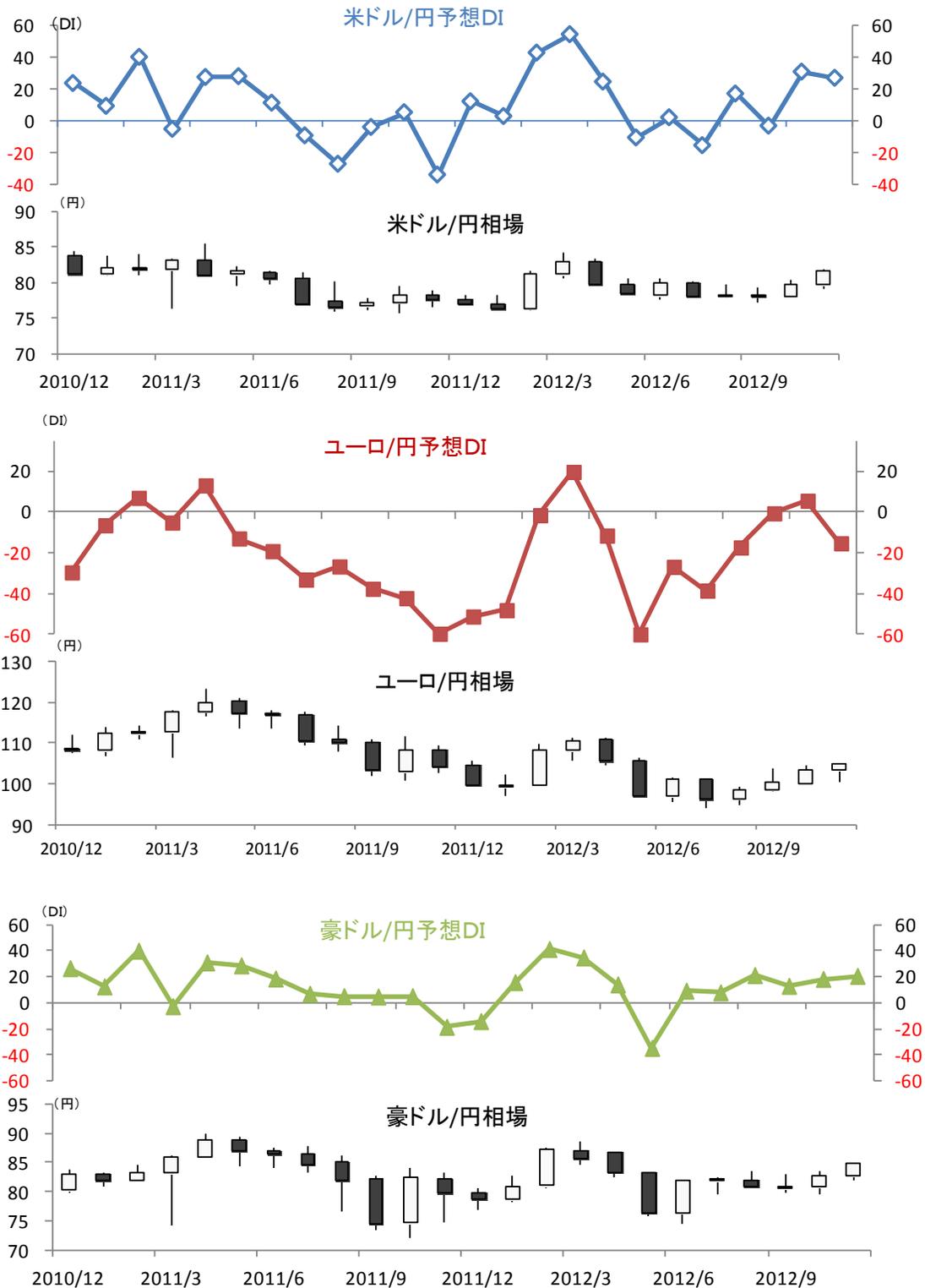
今月のもうひとつの特別質問項目として、2012年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)と尋ねたところ、「79円～81円」が35.4%と最も多く、僅差で「81円～83円(34.7%)」、次いで「77円～79円(12.8%)」、「83円～85円(11.2%)」と続いた。調査期間中の平均終値(80.86円)を基準にすると、円高・ドル安方向への予想がやや優勢となっており、問1の回答から考えると以外な結果となった。(調査期間からちょうど1ヵ月後の)本邦衆院選までは、安倍新政権への期待からある程度ドル高・円安が進むものの、新政権発足後はやや円高・ドル安に転じると考えているのだろうか。そうだとすると、安倍・自民党総裁が掲げる政策の実現性を低く見積もっているという事になるのかも知れない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第42回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com